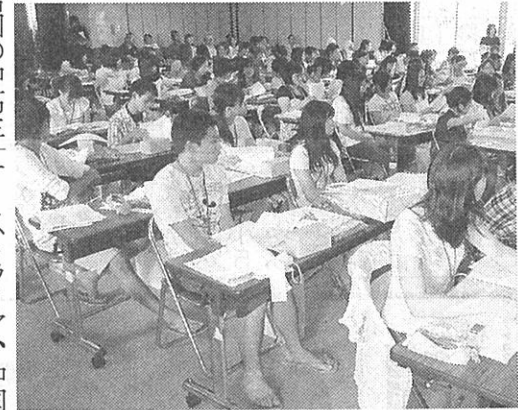


国内外80人が交流

糸満で「アジア青年の家」



「アジア青年の家2010」で、ガイダンスを受ける生徒ら＝6日、県立糸満青年の家

日本と近隣諸国の中高生が沖縄での共同生活を送る中で交流を深める「アジア青年の家2010」(内閣府主催)が6日、県立糸満青年の家で始まった。国内外から80人が参加。23日までの約3週間、「水問題」について講演会や渡嘉敷島での漂着、ごみ実態調査、討論などを通して認識を深める。

今年で3回目。初日は日本と海外の生徒が合流した。自己紹介や2009年に参加したOB「青年リーダー」による、意思疎通の大切さを訴える寸劇などがあった。

青年リーダーのジェイミーさん(18)「フィリピンは昨年の経験を踏まえ「イヤリバチョーデー」の言葉を使いながら、「恥ずかしがらずに(意思疎通に)チャレンジしてほしい」などと呼び掛けた。

同イベントには県内から16人、県外32人、インドや

オーストラリア、中国など15カ国から32人が参加。9日までは「プレセッション」と題し、ハーリー体験や平和祈念公園見学、琉球舞踊鑑賞などで沖縄文化に触れるとともに参加者間の関係づくりをする。